

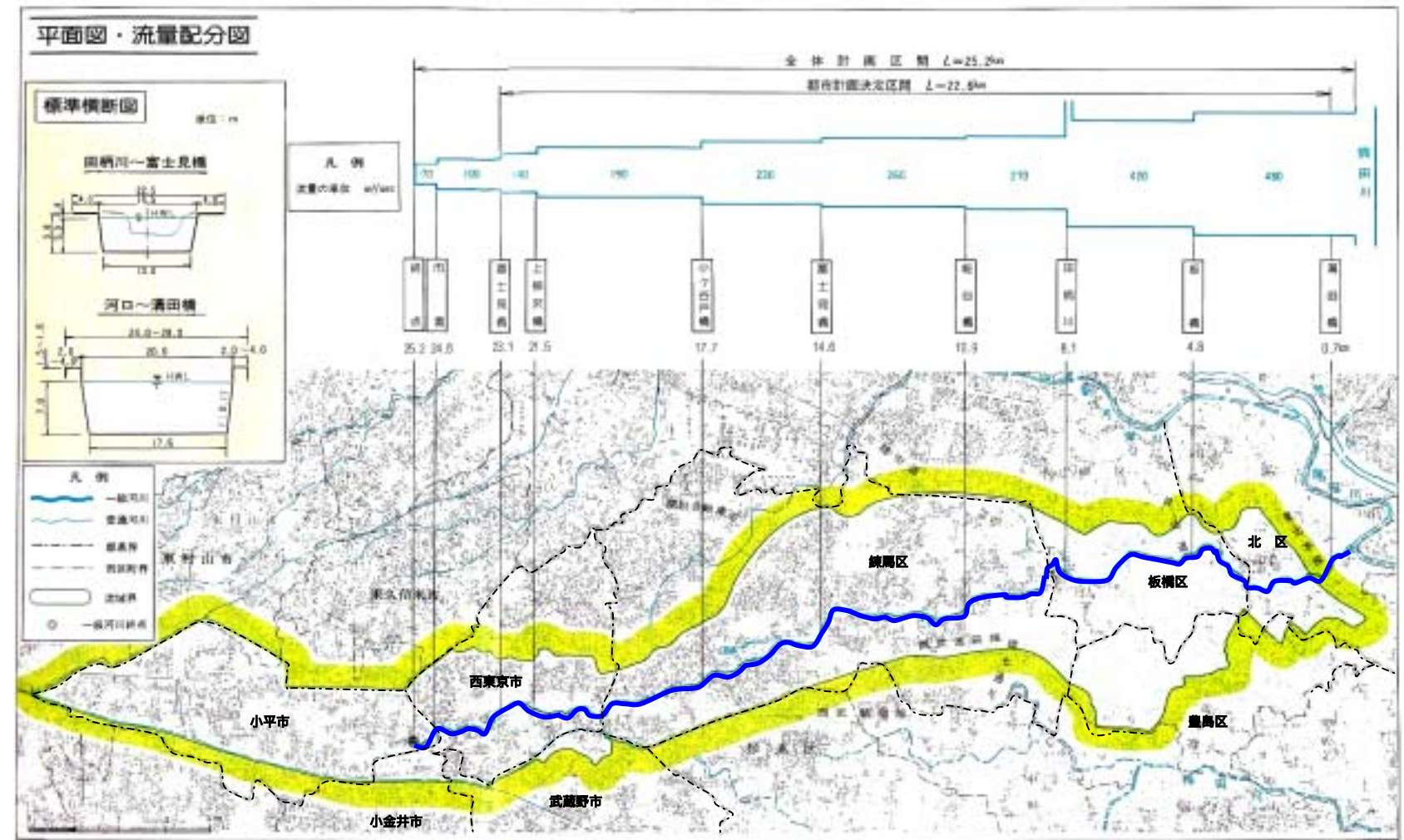
石神井川の治水計画

石神井川計画諸元

延長 (km)	流域面積 (km ²)	m/hr	確率	基本高水 (m ³ /s)
25.2	61.6	50	1/3	480



滝野川橋より上流



石神井川の流域面積と河川延長

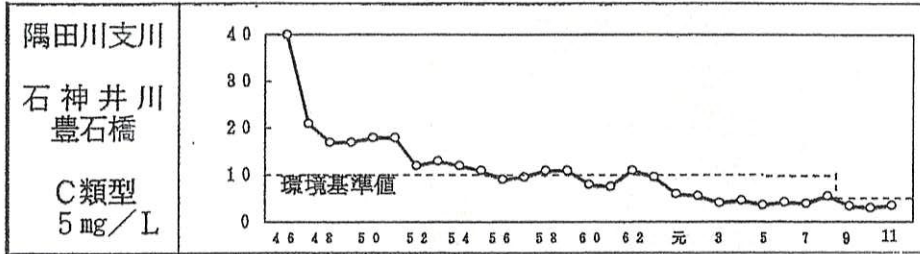
市区町村	流域面積 (km ²)	比率 (%)	延長 (km)	比率 (%)
北区	3.5	6	3.0	12
豊島区	5.8	9	0	0
板橋区	9.6	16	5.8	23
練馬区	28.5	46	11.6	46
西東京市	8.8	14	4.2	16
小平市	3.8	6	0.6	3
武蔵野市	0.7	1	0	0
小金井市	0.9	2	0	0
計	61.6	100	25.2	100

主な水害記録

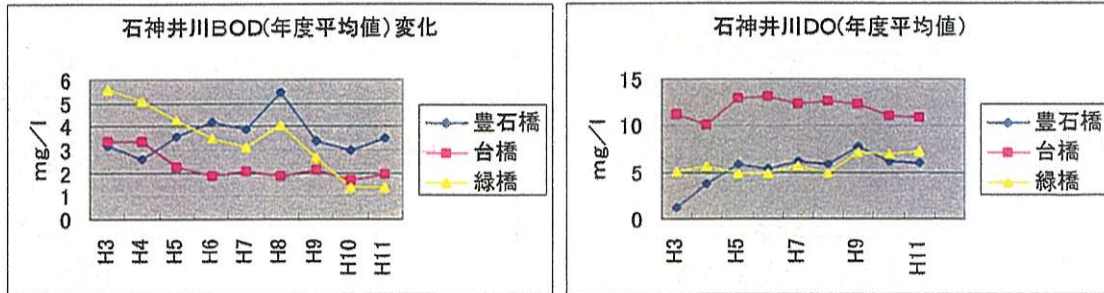
年月日	気象名	氾濫面積 (ha)	浸水棟数 (棟)
S.33. 9.26	狩野川台風	不祥	不祥
S.41. 6.28	台風4号	309	8213
S.49. 7.20	集中豪雨	46.0	1419
S.49. 9. 9	台風18号	42.4	914
S.51. 9. 9	台風17号	108.5	3174
S.52. 4. 6	集中豪雨	30.6	797
S.53. 4. 6	集中豪雨	19.8	645
S.57. 9.12	台風18号	19	1154
H. 1. 8. 1	雷雨	7.4	633
H11. 8.29	集中豪雨	5.7	289

水環境の現状について

○水質の経年変化



○近年の上・中・下流での水質の経年変化



[参考]

○BOD (生物化学的酸素要求量)

有機物による河川の水質汚濁の指標として用いている。

水中の汚濁物質が微生物によって酸化分解される際に消費される酸素量(mg/L:1リットル中のmg数)で表し、水温20℃で5日間の値を用いている。

BODが高いということは汚濁が著しいということで、水中の酸素をより多く消費することとなり、水生生物に悪影響を及ぼし、ひどい場合は悪臭を発生させる。

一般的には、人為的汚濁のないきれいな河川のBODは1mg/L以下であり、魚の生息環境としては5mg/L以下が望ましく、10mg/Lを超えると悪臭が発生するといわれている。

○DO (溶存酸素)

水中に溶解している酸素のことであり、20℃で1気圧の清澄な水1リットル中には約9mgの酸素が溶解している。

水中に有機物が混入するとDOは消費されて低くなり、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなる。

DOは、水中生物にとって不可欠なものであり、比較的生命力の強いコイやフナ等でも5mg/L以上が望ましいとされている。